

平成 30 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
自己評価書

横浜市立みなと総合高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制・総合学科

2 学校長 小峯 正美 （平成31年4月1日現在 在職1年目）

3 学校教育目標

人間力を高める

「知識活用力」「自己実現力」「人間関係力」を培い、人間力を高める

4 教育方針

・めざす学校像

1. 確かな学力の向上を図り、自主・自学の精神を育て、学ぶ力を伸長する学校
2. 総合学科の特徴を生かしたキャリア教育を推進し、相互理解を深める学校
3. 多文化共生、異文化理解教育等の取り組みを実践し、相互理解を深める学校

・めざす生徒像

1. 真摯な学びを通し、蓄積した知識を活用することができる生徒
2. 特色あるキャリア教育を通し、将来の展望を拓くことができる生徒
3. 多種多様な教育活動を通し、温かな人間関係を築くことができる生徒

5 教職員数（平成30年12月1日現在）

学校長 1 校長代理 0 副校長 1 事務長 1
教 諭 57 （男 29 、女 28 ） 養護教諭 2
実習助手 2 事務職員 3 技能職員 3
A E T 2 非常勤講師 19 管理員 1

6 生徒在籍数（平成30年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男 子	女 子	合 計
1	6	51	186	237
2	6	49	186	235
3	6	57	169	226
4	1	1	1	2
合 計	19	158	542	700

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		61	61	100.0 %
生徒	1年	237	232	97.9 %
	2年	235	228	97.0 %
	3年	226	209	92.5 %
	4年	2	2	100.0 %
	合計	700	669	95.6 %
保護者		700	490	70.0 %

8 自己評価実施日

教職員	平成30年12月10日～平成30年12月14日
生徒	平成30年12月10日～平成30年12月25日
保護者	平成30年12月13日～平成30年12月25日
地域	平成 年 月 日～平成 年 月 日

9 集計・分析期間

平成30年12月18日～平成31年2月28日

10 自己評価書の公表方法・時期

平成31年5月中旬頃、学校WEBページにて公開予定

<自己評価>

1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：生徒 P.5-1、保護者 P.9-1)

取組	<p>(1) 「幅広い選択科目」 総合選択科目、自由選択科目などの幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視している。</p> <p>(2) 「キャリア教育」 産業社会と人間、総合的な学習の時間により、生徒のキャリア形成を支援する。</p> <p>(3) 「国際交流活動」 国際理解教育、人権教育、国際交流プログラムにより、語学力とともに国際性を高める。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none">・生徒アンケート1「科目の設定」の肯定的評価は93%と高い。語学や心理学など多様な選択科目の設定が評価されている。・保護者アンケート1「教育目標に沿った教育活動」の肯定的評価が80%となり、前年度より5.7ポイント上昇した。産業社会と人間では、プログラムを全面的に見直し、「人間力を高める」という教育目標に向けての取り組みの充実を図ったことが評価されている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・「幅広い選択科目」を適切に選択するために知識や意欲が求められる。進路希望に不適な選択や安易な選択を避けることが課題である。・「キャリア教育」の充実を図り、進路実現に向け基盤となる学力の向上を図る必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・平成30年度入学生より教育課程を変更した。高校生として必要な基盤となる学力を身に着けるとともに、興味関心を高める科目の選択につながるものと考えている。・キャリア教育の充実に向けて、他校の事例研究を進め、計画的な指導を行っている。

2 教育活動の状況

□教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 P.1-2,3、生徒 P.5-1、保護者 P.9-2)

取組	<p>(1) 「幅広い選択科目」 生徒の希望する進路や興味・関心に対応した多様な選択科目を設置している。</p> <p>(2) 「主体的な科目選択」 計画的な科目選択ガイダンスを通して、進路や興味・関心に応じて、一人ひとりの時間割づくりを行っている。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none">生徒アンケート1の肯定的評価も93%あり、総合学科としての多様な選択科目の設定については評価が高い。保護者アンケート2「本校のカリキュラムは進路実現に適している」の肯定的評価は毎年70%台後半の高い値を示している。選択科目の充実は良く理解されている。
課題	<ul style="list-style-type: none">「幅広い選択科目」は総合学科高校として大きな特色である。しかし、保護者アンケート2「本校のカリキュラムは進路実現に適している」における否定的評価は14ポイントあり、必ずしも活用されているとは言いきれない。教職員アンケート2,3の教育課程編成及び取組の肯定的評価は、前年度より、13ポイント下がった。平成30年度入学生より実施する教育課程の変更について不安の表れと考えられる。教育課程の変更の成果は3年後になるが、それまで丁寧な対応が求められる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">教職員アンケート2「学校教育目標を踏まえた教育課程の編成」及び、3「目標の実現に向けた教育課程」に対して職員全体で取り組む体制づくりを進めている。

□進路の状況

(関連アンケート番号：教職員 P.1-10、生徒 P.5-6、保護者 P.9-6)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上級学校の説明会には、3年次の職員にも協力してもらい多くの情報を得ることができ、生徒の指導に活用できた。 ・ 大学入試改革について、教員対象のガイダンスを開き、現在の状況、今後の動きなど全体で確認する場を設けた。 ・ 公務員試験や民間就職試験に向けて、複数回のガイダンスや外部講師による指導を行った。 ・ 一般受験者向けに、勉強の仕方や計画の立て方など今からできること、やらなければならないことを確認する場を設け、しっかりと受験に臨める態勢を作った。 ・ 年次ごとに保護者会を開き、進路実現に向けての協力体制を構築していくために情報提供や家庭の役割など伝え、理解を求めた。 ・ 「進路の手引き」では、年次ごとに指導内容を考え、適切な情報を与えるとともに進路実現に向けての取り組みを早めるよう助言を行った。 ・ 1年次の職業に関するガイダンスでは、キャリア教育担当部署とタイアップをして行った。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員アンケート 10「生徒の希望する進路の実現に向けての取組」では、否定的な回答が減少した。教員向けガイダンスや年次会への情報提供や双方向のやり取りを行った結果とみている。 ・ 保護者アンケート 6「進路情報の提供と指導」について、肯定的回答は75.6%と28年度を上回った。進路部開催としては年一回の保護者会だが、三者面談等の担任とのやり取りの中で適切に指導が行われているのだと感じている。 ・ 生徒アンケート 6「進路情報の理解」について、28年度より6%増で80%を超えた。1年次の数値の変化が目覚ましいが、「産業社会と人間」でキャリア教育が十分になされた成果と感じている。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の観点からすると、29年度は職業を中心に今からどのように過ごしていくかという道筋を考える場面が多く、成功していると考えられる。一方、進路という観点からすると、進学を目指す生徒の学校の選択や様々な入試制度の利用、奨学金など現実的な指導が不可欠である。よって、キャリア教育とどのように接点を見つけていくかが課題である。 ・ 大学入試改革に伴い、新しい調査書の作成に向けての検討及び早期の実践が必要である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任が生徒一人ひとりの進路に応じた適切な指導や助言ができるにはまだまだ意識が不足であり、教職員が進路指導に対する意識を高めるためには、さらに関係部署と連携を取りながら進めていく必要がある。 ・ 大学入試改革に伴い教職員自身の研修がこれからますます必要である。

3 学校経営の状況

□教育目標等の設定・実施

(関連アンケート番号：教職員 P1.-13、生徒 P.5-1, 2, 9、保護者 P.9-1, 3)

取組	<ul style="list-style-type: none">・「知識活用力」「自己実現力」「人間関係力」を培い、教育目標である「人間力を高める」教育を推進している。
成果	<ul style="list-style-type: none">・生徒アンケート 1「科目の設定」の肯定的評価は 93%、2「良好な人間関係」の肯定的評価は 86%であった。9「本校の生徒であることの誇り」の肯定的評価は 82%を示している。昨年度に比べ、0.6、2.7、6.1 ポイント上昇している。・保護者アンケート 1「教育目標に沿った教育活動」の肯定的評価 80%、3「良好な人間関係」の肯定的評価 81%であった。昨年度に比べ、5.7、3.1 ポイント上昇している。 <p>生徒、保護者から、本校の教育活動について、概ね理解が得られている。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none">・教職員アンケート 13「学校教育目標への全職員の取組」について、肯定的評価は 55%とあまり高くない。本校の取組について、それぞれの職員による解釈の差があるためと考えられる。今後、教育目標実現に向けて、職員のベクトル合わせを進め、組織的な対応を進める必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・本校の課題と教育目標実現への方策について、全職員が共有し、検討を進める場を設定する。・校務分掌の見直しを図り、明確な目的をもった校内組織とする。

□組織運営及び教職員研修状況

(関連アンケート番号：教職員 P.1-15, 18)

取組	<ul style="list-style-type: none">・学校経営については予算委員会などを経て適切に執行している。・施設・設備の保守・点検を計画的に行っている。・個人情報の管理を適切に行っている。
成果	<ul style="list-style-type: none">・保護者アンケート 9「各種会計報告」の肯定的評価 81%と、昨年度と同じ値を維持している。また、職員アンケート 20「会計報告」の肯定的評価 92%を示している。会計報告については各部署で説明責任を果たすよう徹底している。・生徒アンケート 10「施設設備の充実」の肯定的評価 77%を示している。昨年度に比較し 7.3 ポイント低下しており、特に空調の老朽化が影響している。しかし、保護者アンケート 8「環境美化」の肯定的評価 85%と、昨年度同様高い値を維持しており、リサイクルセンターの設置や迅速な保守管理など、本校の環境美化に関する意識の高さが評価されている。・生徒アンケート 11「個人情報の管理」の肯定的評価 86%、教職員アンケート 22「情報管理」の肯定的評価 90%を示している。情報管理については、教職員だけでなく、PTAの方々にもご理解いただき丁寧に対応していることが評価されている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・施設設備については、全体空調の老朽化が課題である。教室により温度差が激しく、夏季、窓を開けるほど冷えてしまう教室もある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、空調施設の更新について教育委員会と相談していく。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 P. 1-28 生徒 P. 5-2, 4, 5)

取 組	<ul style="list-style-type: none">・学校生活アンケートによる状況把握とその対応・個人面談を含む相談活動・相談しやすい教職員との関係づくり
成 果	<ul style="list-style-type: none">・学校生活アンケート後に個人面談を実施し直接話を聞く機会を設けているため、事前の相談を受けることができた。・生徒アンケート 2 より、86.4%の生徒が良好な人間関係を築いていると回答。また、生徒アンケート 4 が 78.5%、5 が 75.4%と、相談できる教員が身近にいると感じている生徒も多いと思われる。
課 題	<ul style="list-style-type: none">・トラブルの未然防止のための対策がより一層必要である。・SNSトラブルは表面化しにくく、生徒間での様々なつながりを把握することが困難な現状である。・生徒アンケート 5 より、安心できる環境づくりの更なる充実が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・トラブルの早期発見につながるような、日々の相談活動の充実を図る。・いじめ防止対策委員会による、いじめ予防に関する啓発活動を充実させる。